

## 懐かしの千種本町 1 丁目

名古屋大学から田代本通、吹上、古井ノ坂を通り、栄まで行く市バスがある。昼間は 1 時間に 1 本だが、懐かしいルートでもあり、冷房のきいたバスに乗った。

バスは古井ノ坂の手前から、「飯田街道」に入る。飯田街道は歴史ある街道であり、諸説あるが尾張名古屋の中心部(駿河町)から、八事、平張、足助などを通って信州飯田まで続く。

古井ノ坂の次が「千種本町」。  
写真上左は飯田街道を新栄町



に向かって。JR 中央線ガードがかすかに見える。幼い頃、千種駅はガードを北にすこし行ったところだった。その後、現在の位置に移り、地下鉄東山線と接続されることに。右の写真は、古井ノ坂に向かう飯田街道。いくぶん坂になっているのが分かる。この道を進み左折して、大久手近くの千種小学校に通った。いま考えると、遠い道のりだった。

次の写真 2 枚は、自宅の鉄道官舎があった付近。飯田街道のすぐ脇に、官舎の敷地があった。木造 2 階建ての「コの字」型をした「長屋」2 棟が並んでいた。その間に広い広場があり、野球



などをして遊んだものだ。いまは大きな 6 階建てマンションなどになっている。

自宅は 2 階の端。部屋は 2 間であり、台所は別にあった。トイレや洗面所は共同で、長い廊下の端にあった。この廊下は子どもたちの遊び場であり、主婦たちの井戸端会議の場でもあった。10 年ほど住んでいたもので、60 年以上経っても、なんだか当時のことをよく覚えている。とりわけ忘れられないのが、レポートで何回か書いてきた 1959 年 9 月 26 日の伊勢湾台風だ。土曜日の夕方から夜遅くまで、現在のようなサッシでない雨戸、窓ガラスを必死に手で押さえた。まもなく伊勢湾台風から 62 年がたつ。

下の写真は官舎の東の道路。左角には「うどん屋」があったと思う。母が裁縫の仕事で忙しかったときなど、きしめんなど食べた記憶が。すこし行くと、たばこ屋が営業していた。ここも記憶が残っている。この道を行くと、サッポロビール工場があった。幼い頃からビールと親しんでいた。



もう一度、飯田街道に出て千種駅の方に向かう。お世話になった牛乳屋さんは、取り壊されていた。お寺にあった幼稚園も見つからなかった。時の移り変わりを感じた。

(2017 年 9 月 14 日)